

2024 年 11 月 17 日（日）第二礼拝「信仰・希望・愛」Ⅰコリント 13 章 13 節

「信仰・希望・愛」、この三つは神様との関係を表します。それは、神様に希望を持ち、神様を信じ、神様を愛することです。その中で優れているのは、愛だと言われます。私たちは、神様に希望を持ち、神様を信じて天国へ行きます。天国では主と会えるので、信仰と希望の役割は終わります。最後まで残るのは愛です。ですから、愛が最も優れているのです。

第一番目、希望です。「希望」はヘブライ語で「ティクバ」と言います。イスラエルの国歌は「ハティクヴァ」です。ユダヤ人たちは二千年間イスラエルへの帰還や祖国独立への希望を抱き続けてきました。国歌には、その切実な願いが歌われています。彼らが御言葉を信じて、祈り続けた結果、1948 年イスラエルは独立し、1967 年エルサレムを奪還しました。「わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。」（エゼキセル 36：24）「ティクバ」が聖書で最初に出てくる箇所は、ヨシヤ記 2 章です。イスラエルの神様の御業を聞いて信じた遊女ラハブは、エリコの町を偵察に来た二人の斥候をかくまい、彼らと契約し、自分の家に赤いヒモを結び付けました。その赤いヒモが「ティクバ」です。そこに集まる者は皆救われるという希望だったのです。

第二番目、信仰です。「信仰」はヘブライ語で「エムナ」です。これが聖書で最初に出てくるのは、「彼は主を信じた。主はそれを彼の義と認められた。（創世記 15：16）」です。かつて、アブラハムは神様から「あなたを祝福し、地上のすべての民族はあなたによって祝福される。」と言われました。しかし、十年が過ぎても子どもが与えられませんでした。再び神様が現れ、彼の子孫は空の星のように多くなると言われました。そして、彼は神様の約束を信じました（エムナ：胸で抱く、所有する）。信仰とは神様の御言葉を受け入れること、神様の義、赦し、永遠のいのちを所有することです。ユダヤ人たちの希望は、来年の過ぎ越しの祭りはエルサレムでいけにえを捧げることでした。彼らの罪が赦される場所は唯一エルサレムだけだからです。しかし、その神殿は崩壊してしまいました。神殿とは、罪が赦される場所ですが、イエス様はご自分がその神殿だと言われます。イエス様は私たちの全ての罪を背負い、十字架で死なれ、私たちを義とされました。罪の赦しはこのイエス様によるのです。

第三番目、愛です。「愛」はヘブライ語で「アハバ」、ギリシャ語で「アガペ（神様の愛）」です。イエス様はペテロに「あなたはわたしを愛しますか（アガペ）。」と聞いた時、ペテロはフィレオ（友情の愛）で愛することを伝えます。神様はまず私たちにアガペの愛を示してくださいましたが、人間には神様の愛を実行することが難しいのです。「愛は寛容であり、愛は親切です。…すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。」（Ⅰコリント 13：4～7）まずイエス様が私たちに寛容を示し、親切にし、すべてのことを信じ、期待し、耐え忍ばれました。主の愛はイスラエルに対して続き、私たちにもその愛が注がれています。ですから、私たちも人を愛することができるのです。神様が信仰と希望を与えられる目的は、この地上で私たちが愛することを学ぶことにあるのです。アーメン！